



法人（事業所）理念	笑いの中に療育あり 地域と生き、こが笑顔でいられる居場所となるよう子どもたちを支援します。		
支援方針	1 子どもたちのあるがままを受け入れ、子どもたちの安心、安全に努めます。 2 子どもたちが、わくわくしながら、楽しみながらのびのび成長できるように工夫し支援します。 3 子どもたちの最善の利益を大切にし、子どもの特性や個性を尊重する居場所を目指します。 4 家庭や関係機関と連携し、子ども一人ひとりに寄り添い、特性や成長に応じた支援を提供し、地域福祉に貢献します。 5 支援スキルの向上のため、自己研鑽に努めます。		
営業時間	8時	30分から	18時 0分まで
			有
			送迎実施の有無
	支援内容		
健康・生活	①健康状態の把握・・・来所時、退所時の検温と健康観察 ②基本的な生活スキルの獲得・・・排泄のサポートや身だしなみ、清潔保持の支援。 ③構造化等により生活環境を整える・・・落ち着きルームやバーテーション等、障がいの特性に配慮した環境設定をして支援する。時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。 ④食育・・・クッキングやお菓子作りなど食に興味関心をもてる支援 ⑤金銭勘定・自己選択・・・買い物体験を通し、選択する力やお金の使い方を支援する。 ⑥心身の発達・・・四季折々のイベントを開催し、季節感を感じ、多文化の興味理解を引き出し、心身の発達を支援する。		
運動・感覚	①姿勢と運動・動作の基本的技能の向上・・・体操やダンス、サーキットなどを通して運動遊びで、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、筋力の維持・強化を図る。 ②保有する感覚の活用・・・保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるように、ビジョントレーニングや遊びを通して支援する。 ③日常生活に对应できるように身体動作の土台作り・・・運動遊び（粗大運動）の中で、体幹トレーニングやボディメイキングの確立など、動作の土台作りを支援。課外活動で公園や公共施設などで全身を使った遊びも提供した体力づくり。 ④感覚機能の発達・・・五感を使って楽しむ感覚遊びで、自分の身の回りの物へ興味関心をもて、想像力や思考力を高める。感覚情報より効果的に処理し、統合する能力を高める感覚遊びを提供。		
本人支援	①視覚から行動への認知発達・・・スケジュールボードや絵カード等、環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 ②行動障害への予防及び対応能力の向上・・・SST等を用いてコミュニケーションの困難から生じる行動障害のや適切な行動への対応能力向上の支援。 ③基礎能力の発達、運動能力の向上・・・リトミックやリズムジャンプなど五感を刺激する活動で、物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。 ④数量、大小、色、空間認知等の習得・・・フロップ、粘りテープなど立体的な形物を使った創作活動で数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。		
言語 コミュニケーション	①受容言語と表出言語の支援・・・話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。 ②コミュニケーション能力の獲得・・・SST等を用いて考えを表現したり場面における人との相互作用を通して、コミュニケーション能力の向上のための支援を行う。各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。 ③読み書き能力の向上のための支援・・・知的障がい等、障がいの特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。		
人間関係 社会性	①アタッチメント（愛着行動）の形成・・・人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。 ②積極行動の支援・・・SSTやゲーム等を通して人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係構築の支援。 ③一人遊びから協同遊びへの支援・・・一人遊びの状態から並行遊びを行い、支援者が介入して行う連合的な遊び、役割分担したルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 ④自己の理解と感情のコントロールのための支援・・・自分の行動の特徴を理解することなど、自分の行動の調整ができるように支援する。 ⑤集団や地域への参加の支援・・・集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるように支援する。課外活動や社会見学や職場体験など地域交流できる場を設けたり、公共施設や公共交通機関でのマナーやルールなどの社会性への支援を行う。		
家族支援	ご家族からの相談などに対し、信頼関係を日頃より築き相談しやすい環境づくりに意識し、相談員や関係機関と随時連携を図りながら、対面や電話、公式ラインなどで対応。	移行支援	園や学校、相談事業所と連携し、日々の様子など情報を共有して支援を行う。 地域へ参加する機会を設け、学校と定期的に情報共有を行い、児童クラブへの移行などインクルージョン療育につながる支援を行う。
地域支援・地域連携	各機関と、情報共有など連携し、支援方法などを検討し本児が安心して過ごせる体制を整える。 連携会議など積極的に参加し、情報収集や情報共有を行い、関係機関で役割分担などについて協議する。 地域の商業や福祉施設等と関係性を築く。	職員の質の向上	毎日のミーティングにて、情報の共有。 月一回の研修（虐待防止、接遇、救急救命など毎月テーマを設定）。 月一回の職員会議（ヒヤリハットや日々の支援のモニタリングを行い、支援の方向性を共有） 自己研鑽のための研修機会や療育本等書籍の提供。
主な行事等	・季節行事（1月 初詣、2月 豆まき、3月 ひな祭り、5月 子どもの日、7月 七夕、8月 夏祭り、10月 ハロウィンパーティー 12月 クリスマスパーティー等） ・クッキング（毎月土曜1～2回） ・社会見学（消防署、警察署） ・避難訓練 ・救急救命講習 ・園や図書館など。）		・職場体験（地域のコンビニや就労施設など） ・課外活動（買い物支援、バスや電車体験、地域の